

平成27年度 第2回印西市スポーツ推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成27年11月16日(月) 午前10時00分から午前11時00分まで
- 2 開催場所 松山下公園総合体育館 会議室
- 3 出席者 青木和浩委員 富所正史委員 五十嵐靖宏委員 伊東勝正委員  
梅澤章子委員 本郷美代委員 秋山 剛委員 岡田光靖委員
- 4 欠席者 齊藤輝一委員 齋藤奈智子委員
- 5 事務局 スポーツ振興課 渡邊課長 岩井副主幹
- 6 傍聴者 0人
- 7 会議 以下のとおり

1. 開 会 進行 事務局

2. あいさつ 青木会長

3. 報告事項

— 事務局説明 —

(1) 学校プール開故事業実施報告について

(会 長) 資料4 Pにある学校プール開放を実施した地域団体とは、どのような団体か。

(事務局) 船穂アスレチックスは、船穂小学校区でティール等々の活動をしている団体、親水クラブは、本埜第二小学校のPTAがメインとなる団体、滝野おやじの会は、滝野小学校区で自主的に活動されている保護者の団体である。地域団体主体による学校プール開放については、平成26年度においても3団体が実施したが、本埜第一小学校を学校プール開放で利用した1団体に変わり、今年度は、新たに船穂アスレチックスが学校プール開放を実施した。

(会 長) 事故等はなかったか。

(事務局) 軽度な事故はあったが、大きな事故は無かった。

(2) 関東大学女子駅伝対校選手権大会事業実施報告について

(会 長) 当日は雨だったが、事故等もなかった。運営についても、印西市の協力を得て終了することができたことに感謝している。

(3) スポーツフェス2015事業実施報告について

(委 員) 昨年度は雨のため、パークゴルフ体験は、午前中で終了し、人数も111人だったが、今年度は560人と飛躍的に上がった。協力していて最高に良かった。

(委 員) 子供たちも参加し、非常に楽しかったと言っていた。泉公園パークゴルフ場も利用したいと言っている。

(会 長) パークゴルフ体験と縄跳びの達人の人数が増えているのはなぜか。

(事務局) 昨年度との天候の違いや、手軽にチャレンジできることが人数増につながったと考えられる。

(委員) 種目を見ると遊戯が多いが、マラソンのようなものを取り入れてはどうか。私自身も年に数回、マラソン大会に出場するが、中規模の大会だと5,000人ほどが参加する。小規模の大会でも1,000~2,000人が参加するのではないか。印西市でも近年まで正月マラソン大会を実施していた。大会を開催するには、各団体に協力依頼等をする大変さもあるが、5km、10kmのマラソン大会を開催してみてもどうか。

(委員) パークゴルフ体験と縄跳びの達人に参加した年齢層はどのぐらいか。

(委員) パークゴルフ体験については、3歳~70歳ぐらいの年齢層の参加があった。

(事務局) 縄跳びの達人については、小学生が多かった。

(会長) 小学校では、縄跳びのような軽スポーツを取り入れているのか。

(委員) 体育の学習で、体づくり運動という領域があり、小学校ではその中で全学年が取り組んでいます。時期的には、10・11月に持久走・マラソン、12月・1月に短縄跳び・長縄跳びを実施し、体力づくりを目的に取り組んでいる学校が多い。

(会長) 都内では校庭が狭く、マラソン等走り回ることができないため、効率のいい運動として、縄跳びがいいという話もある。

(委員) 使用した縄跳びは、対象に配布はしたのか。

(事務局) 参加者には、記録用紙と参加賞を配布している。

(委員) ノルディックウォークはどのようなものか。

(会長) スキーストックのようなポールを持って歩くスポーツで、元々は北欧のノルディックスキーから始まっており、最近盛んである。特に、中高年者の全身持久力をつけるために行うことが多く、通常のウォーキングよりも膝の負担が少なく、全身運動ができる種目である。

(事務局) 平成26年度スポーツ振興基金の助成を受け、ポールを購入した。スポーツフェスでは、スポーツ推進委員が指導者となり、陸上競技場で実施した。

(委員) 安全に使用する場合はいいが、道路で使用するほかに、イオンの中でポールを使用してウォーキングをする人がいて危険な面もあるので、危険だという認識を広報等で啓蒙したほうがいいのではないか。

(委員) ノルディックとは、「北欧の」という意味で、北欧で盛んに行われている。クロスカントリーとジャンプの2種目をノルディックという。ポール1組が約10,000円で購入できるが、個人負担が大きいので、そこが普及しづらい要因ではないか。

(委員) 北海道では、役場で備品を整備し、冬場にパークゴルフができない代わりにノルディックウォーキングを実施している。

(委員) スポーツマンNo.1やクライミング、トランポリン体験の参加希望者が多く、受付の締め切りが早かったが、来年度以降の対策は考えているのか。

(事務局) できるだけ参加できる人が多くなるよう検討する。

#### 報告(4) 印西アスリート教室について

(会長) テニス教室については、定員が120名か。

(事務局) 当初は、午前の部40名、午後の部40名の合計80名を定員としていたが、テニス連盟が120名まで受入れ可能とのことから、定員を増やした。

- (会 長) 水泳教室については、現在の中高生の申込状況が6名と少ないが、学校の水泳部への周知はどうか。
- (事務局) 現状、印西市の中学校・高校に水泳部がない。
- (会 長) 今後の検討になるが、ターゲットをどこにするか。例えば、ターゲットを中高生にするのであれば、市内で特徴的な部活に絞るというのも一つの方法である。
- (委 員) 中学生は、学校の部活よりも、クラブを主として活動しており、中体連の大会に出るときだけ、部員として出場しているのが現状である。
- (委 員) 温水センターや民間施設のプールに所属している子供たちへの広報は行ったのか。
- (事務局) 水泳協会を通じて、広報をお願いしている。
- (会 長) 引き続き広報活動を続けてほしい。

#### 4. 議 題

<議長 青木会長>

##### (1) スポーツ振興課所管補助金について

- 事務局説明 —
- 質 疑 —

- (会 長) 来年度はスポーツ行事補助金において1行事増えたこと以外、基本は今年度と同様か。
- (事務局) 体育協会補助金について、今年度は550万円で、来年度は580万円を要求している。増額分については、体育協会の広報等に携わっていただく方の賃金として支払うための増額である。

##### (2) その他

- (会 長) 去る8月に世界陸上が開催され、アメリカチームが、順天堂大学、成田市の中台運動公園陸上競技場、佐倉市の岩名運動公園陸上競技場で、事前キャンプを実施した。イベント等も開催し、印西市の小中学生にも参加してもらった。引き続き2020年に向け、国際化を図っていきたい。さらに世界体操も開催され、35年ぶりに団体で金メダルを獲得し、順天堂大学出身者及び学生が多く出場したことにより、順天堂大学及び印西市の名前が広く知れ渡ったと感じる。また、1月には箱根駅伝があり、昨年度よりも戦力が上がっているので、引き続き、皆様の応援をいただきたい。

#### 4. 閉 会